

# 月次県内経済

## 概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

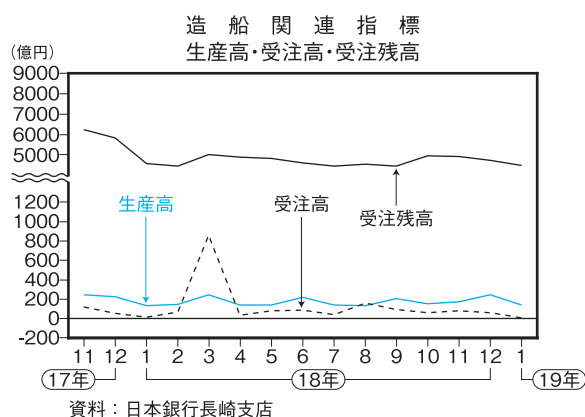
<2月>生産面では大手・中堅造船は一部で操業がやや弱含み、重電機械は高水準ながら操業度をやや引き下げており、電子部品は増勢。需要面では、公共工事請負金額は増加、新設住宅着工戸数は弱めの動き。個人消費では、乗用車（登録車）販売台数が増加も、大型小売店販売額は弱含み。観光面は、主要施設の入場者数、宿泊者数とも前年並み。雇用面では有効求人倍率が1.2倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。3月入り後は、生産・投資は底堅く、観光面は持ち直しの動き。

## 造船

### 一部では操業やや弱含みも、中小は堅調

大手・中堅造船では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度がやや弱含みで推移。

地場中小造船では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。

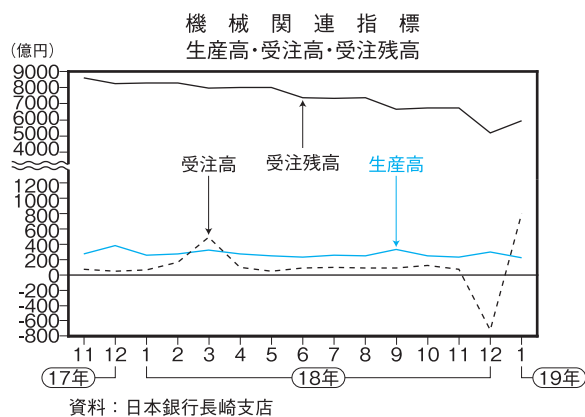


## 機械

### 重電機械は概ね生産堅調、電子部品は増加継続

重電機械では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は、エネルギー関連を中心に受注が低水準で推移している。電動機は高めの操業を維持している。列車空調装置は高水準の受注残を維持。大型映像機器は受注残が増加。

電子部品では、海外との競争など厳しい環境ながら、生産増加継続。



小売商況

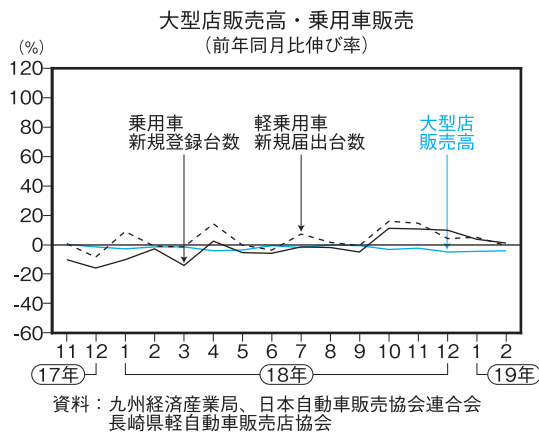
概ね横這い圏内も弱めの動き

小売商況をみると、2月の県内大型小売店販売額は、前月に続き前年割れ。乗用車販売は、登録車がプラスも軽乗用車は微減。サービス消費面の旅行取扱高は前年割れ。なお、3月度の大型店売上げは比較的堅調に推移。

2月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー36店、九州経済産業局調べ）は73億円、前年同月比4.3%減（同一店舗比較）と15カ月連続のマイナス。品目別では、飲食料品が2.6%減となったほか、衣料品についても、主力の婦人服等が4.8%減、紳士服・洋品が6.4%減、身の回り品も9.0%減となるなど全体では6.3%減。スーパー・大型店等では、インバウンド客増もあってドラッグストアの好調が続き、コンビニも堅調な売上げが続いている。

乗用車販売では、2月の**新規登録台数**は2,032台、前年同月比1.1%増と5カ月連続のプラス。うち普通車は9.0%増の1,020台、小型車が5.8%減の1,012台。また、軽乗用車は1,977台、0.6%減となり、5カ月振りの減少。軽を含む総販売台数では4,009台、0.3%増となり5カ月連続で前年を上回った。

サービス消費面では、2月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が前年同月比38.0%減となり、10カ月連続のマイナス。うち、国内旅行が48.8%減で8カ月連続のマイナス、海外旅行は56.5%増となり4カ月振りのプラス。

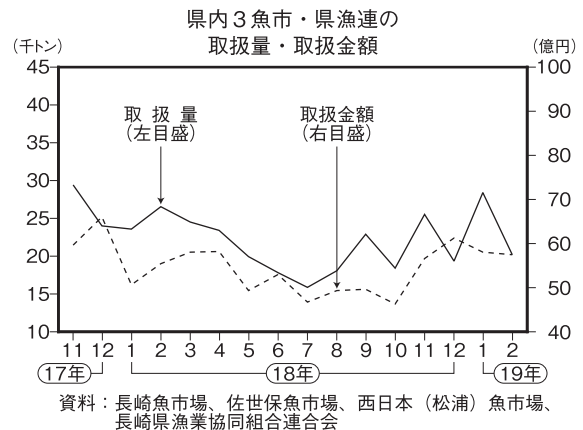


## 水産

### 取扱量が減少するも、金額は増加

2月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況を見ると、**取扱量が2.0万トン、前年同月比23.5%減少**したものの、**取扱金額は57億円、同3.8%増加**した。

魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比36.6%減少し、単価が53.5%上昇したものの、金額は2.6%減少した。また、サバも数量が同51.1%減少し、単価が44.3%上昇するも、金額は29.5%減少した。



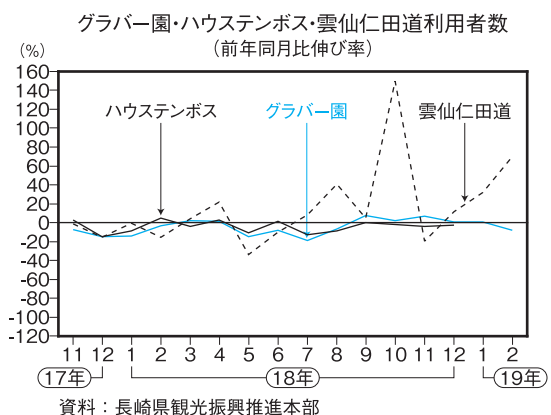
## 観光

### 主要施設の入場者数、宿泊客数とも前年並み

2月の県内観光をみると、主要観光施設の入場者数は微増となり、主要宿泊施設の宿泊客数も前年並みであった。

**主要観光施設等**（13施設）の入場者は402千人、前年同月比0.4%増加した。地区別にみると、県南地区はグラバー園（7.8%減）と長崎歴史文化博物館（8.0%減）が減少するも、長崎原爆資料館（7.0%増）は増加した。島原半島では、リニューアルのため昨年同時期閉館していた雲仙岳災害記念館が一昨年比2.5倍となり、「島原城下ひなめぐり」が開催された島原城（30.9%増）も増加、また、宿泊施設のリニューアルオープン効果が温泉街に広がっている雲仙仁田道（70.1%増）も大幅増となった。一方、県北地区をみると、ハウステンボスと平戸城（7.6%減）が減少したものの、九十九島パールシーリゾート（7.9%増）は増加した。離島地区では、昨年世界文化遺産に認定された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の好影響が続く堂崎天主堂（16.9%増）が9カ月連続増となり、一支国博物館（7.8%増）と万松院（18.4%増）も増加した。

**県内主要宿泊施設**（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月並みとなった。地区別にみると、長崎市でランタンフェスティバルが開催された県南地区は4.6%増加したものの、県北地区は5.0%減少した。また、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、県外資本によるホテルのリニューアルオープンが相次ぐ雲仙地区の宿泊客数が18千人、前年同月比16.5%増と6カ月連続増加する一方、小浜地区は8千人、同17.9%の減となった。



公共工事

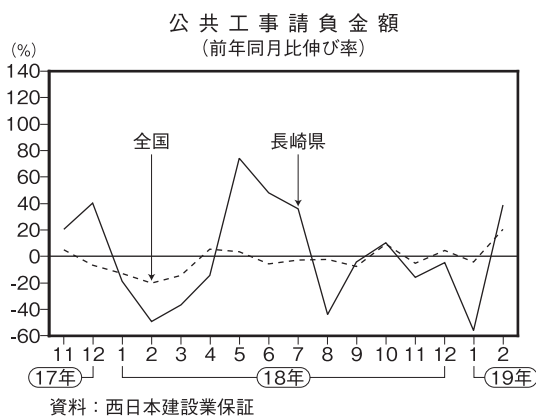
請負金額、4カ月振りの増加

2月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は209件、前年同月比5.0%増、一方、**請負金額**は83億円、同38.8%増となり、4カ月振りに前年を上回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「国」（14億円、24.3%減）は減少したものの、「県」（24億円、32.9%増）と「市・町」（31億円、48.0%増）は増加した。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、諫早地区（22億円、21.3%増）、県北地区（19億円、30.7%増）、長崎地区（17億円、62.6%増）など8地区。一方、壱岐地区（1億円、74.4%減）など2地区では前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、（仮称）松浦市市民福祉総合プラザ整備事業新築工事建築工事建築主体工事（8億円）、（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構発注の九州新幹線（西九州）、新大村（仮称）駅新築（7億円）など。



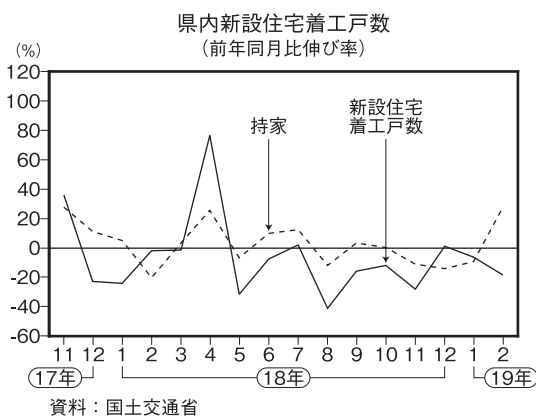
住宅建設

引き続き横這い圏の推移

2月の**新設住宅着工戸数**は486戸で前年同月比18.6%の減少ながら、戸数自体は引き続き横這い圏での推移となっている。

主な利用区分別にみると、持家（278戸、前年同月比27.5%増）と分譲（100戸<うちマンション60戸>、前年同月比61.3%増）が前年比増加、一方で貸家（106戸、66.3%減）は前年を大きく下回った。

主な市郡別（県建築課調べ）では、前年を上回ったのは大村市（101戸、46.4%増）、諫早市（85戸、49.1%増）など9市郡、下回ったのは長崎市（137戸、51.4%減）、佐世保市（56戸、41.7%減）などの7市郡。



## 雇用

### 緩やかな改善傾向続く

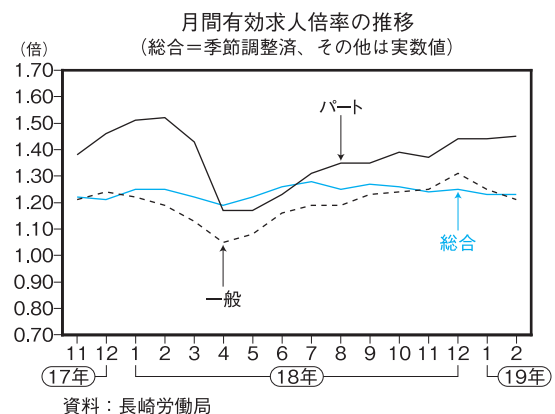
2月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月と同水準の1.23倍。また、全国の有効求人倍率についても、前月と同水準の1.63倍となった。

**新規求人数**は10.7千人、前年同月比0.2%減となり、4カ月連続の減少となった。形態別では、一般求人が1.3%減と3カ月振りの減少、パート求人は1.3%増と4カ月振りの増加。主な業種別にみると、製造業（24.1%増）や飲食店・宿泊業（13.6%増）、医療・福祉（6.5%増）などの業種は増加したが、卸売・小売業（16.9%減）や運輸業（10.9%減）、サービス業（8.2%減）などが前年を下回った。一方、**新規求職者数**は6.3千人、前年同月比4.5%減となり2カ月振りの減少。形態別では、一般求職者が6.3%減、パート求職者は1.3%減であった。

また、**有効求人数**は29.6千人、前年同月比0.2%減となり6カ月連続のマイナス、一方、**有効求職者数**は22.9千人、0.8%増と14カ月振りに前年を上回った。

**就職件数**は2.3千件となり前年同月比1.4%増。また、**雇用保険受給者実人員**は4.6千人、前年同月比3.3%増となった。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



## 企業倒産

### 低水準続く

3月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比1件減の5件となり、14年11月以降、4年4カ月にわたり一桁台が続いている。

一方、**負債総額**は、大型倒産の発生により、前年同月比29.7億円増となる34億円と、2017年3月以来、単月の負債総額が30億円超えとなった。

倒産を業種別にみると、サービス業が2件、建設業と卸売業、小売業が各1件ずつ。また、その原因は「販売不振」が3件で、「投資過大」が2件。

